



発行所

関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成22年2月5日

Vol.51



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 間 誌

もくじ



● 年頭所感 斎藤昭一理事長	2
● 新年賀詞交歓会を開催	3
● 賛助会員との懇談会開催	4
● 関連3団体懇談会開く	5
● 組合員懇談会開く	6
● 大阪管材展に出演	6
● 受検対策実技講習を実施	7
● 技術研修会開く	8
● レッキス工業に感謝状贈呈	9
● 組合員紹介 (増田工業株)	10
● 日管連青年部合同部会開く	12
● 青年部会 工場見学会を実施	13
● 理事会 議事要旨	14
● 田中元組合理事長逝去	14
● 登録配管基幹技能者講習を開催	15
● 大空衛 技能コンテストに参画	15

将来担う若者を育成し業界活性化



理事長 齊藤 昭一

年頭に当たり一言ごあいさつを申し上げます。

平素は、組合へのご協力に対し心よりお礼申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

昨年は政権が代わり、各企業の投資計画見直しによる予定の物件が変更になったりで、かなり影響を受けた方々も沢山おられるのではと心配しています。各企業の投資の見直し計画の変更等々で確保した職人さんがあふれて、影響を受けた業者の方も沢山おられるのではと心配します。

職人の高年齢化については、まだ少数であります、現場就労65歳まで認めるゼネコン・サブコンが出てまいりました。大変な進歩だと喜んでいるところです。

日空衛・全管連・日管連の3団体共同事業として「登録配管基幹技能者認定制度」を創設してこれまで

に1076名の登録配管基幹技能者を認定してきました。平成20年4月1日から国土交通大臣の登録を受けた実施機関が行う「登録配管基幹技能者講習」を修了したものは、新たに経営事項審査において加点評価されることとなりました。順次、今までの配管基幹技能者宛に特例基幹技能者講習の案内があります。

また、当組合では、大阪府管工事業協同組合が取り扱っていた会員様を引き受け、労働保険事務代行を行っています。大変喜んでいる次第です。

重点施策としている1級配管技能士育成については今後も年間50名を目標に育成していきたいと考えています。沢山の応募のほどお願い申し上げます。

本年も引き続き、われわれ業界の将来を担う若者が楽しく働く業界になるよう努力し、多くの人が集まり、今後ますます業界が活性化することを祈念いたしまして年頭のごあいさつとさせていただきます。

—「寅年」アラカルト—

「虎の子」という言葉があります。「虎穴に入らずんば虎子を得ず」が大事なおカネやヒト、つまり大切に持ち続けて手放さないもの、秘蔵品などです。虎は自分の子を大事に守り、ものすごく可愛がって育てると言われていることに由来します。この虎の強い母性愛から生まれた諺では、「虎は千里を行つて千里を帰る」といいます。「虎は千里の藪に棲む」とも切つて危険をおかすほどの勇気も必要でしょう。

今年は寅年です。正式の干支でいえば「庚寅」（かのえ・とら）となります。「庚」の字は更（あらたまる）という意味があり、草木の成長が行き詰まり、新たな形に変化しようとすると状態を表すそうです。昨年の経済はまさに八方塞の行き詰まりでした。今年はひとつ新たな希望が持てる形に変化してほしいものです。



賑やかに新年賀詞交歓会



奥浜氏の発声で乾杯

組合の新年賀詞交歓会は1月26日午後5時30分から大阪・中津のホテルコムズ大阪で開催し、賑やかにあいさつを交わして2010年のスタートを切りました。

賀詞交歓会には関連団体などからの来賓を交え、組合員、賛助会員など合わせて約50名が出席し、庄司真之理事の司会で進められました。

年頭のあいさつに立った斎藤昭一理事長は「昨年、政権が交代して期待していたが、景気は一向によくならない。建設分野では民間需要、官公需要とも減退を続け、当業界の心配はつのる一方」と厳しい業況を指摘、「長引く不況で資金不足に陥って解散の止むなくに至る業界団体もあるやに聞く。昔から『存続は力なり』という言葉もあるように、団体も企業も存

続してこそ意義がある。当組合は財政面は決して豊かではないが、そこそこの事業が展開できるだけの基盤はある。今後も皆様の協力を得て存続、発展していきたい。今日は大いに飲み、食べて、不景気を吹き飛ばす意気込みで賑やかに歓談しよう」と呼びかけました。



年頭のあいさつを述べる斎藤理事長

業は競争力をつけて発展する力ができるが、景気に関係ない官庁はぬるま湯に浸かったままで体力がつかない』という言葉を引き、「不景気もそれなりに意味があり、恐れることはない」と述べました。さらに城口氏は、同協会が昨秋、空調衛生団体で全国初の配



城口氏が来賓あいさつ

来賓紹介に統いて、大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表してあいさつ。城口氏は、ある中国人実業家・経済評論家の『不景気があるから民間企

管技能コンテストを実施し、それを継続していく方針であることをあげ、「皆様と力を合わせ、技能の向上に注力していく」と述べ、当組合に対し協力を要望しました。

大阪府中小企業団体中央会・奥浜豊喜企画調査部主幹の発声で乾杯したあと、賑やかに交歓しました。宴半ばには賛助会員が1社ずつ壇上で自社PRを展開するなど大いに盛り上りました。最後に、玉川義光副理事長の音頭で威勢よく大阪締めを行い、今年の健闘を誓いました。



賛助会員との懇談会開催

配送問題、資材価格で意見交換

組合では、賛助会員（メーカー・流通）との第5回懇談会を10月28日に組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催しました。組合員5名、賛助会員7名、事務局1名の計13名が出席して意見・情報交換をしました。

冒頭あいさつに立った斎藤昭一理事長は「一時期に比べ仕事量は大きく減少した。われわれの主要工事発注元のサブコンも同様の状況にあるようだ。民主党政権下で建設業界はより一層厳しさが増すとみられる。工事受注価格が低迷し、メーカー・流通の皆さんに満足してもらえるような値段で資材を購入できないのが現状であるが、なんとか頑張って少しでも皆さんの期待にお応えしたい」と述べました。

「事量減少に拍車をかけている」

「建設関連受注が減り、少しある工場関連工事でなんとかしのいでいる」「学校、病院の増築・改築工事はあるが、民間工事はさっぱり」「小さい建設物件はそこそこあるが、大型物件はほとんどない」——など厳しい実情が浮き彫りとなりました。今後の見通しについては、「比較的大きい工場関連物件が来年以降動き出す」「散発的ではあるが、都心部でかなりの規模の建物が着工する」「大阪南部や和歌山などの周辺地区で大型工場物件が予定されている」「水処理、ごみ処理などの環境関連施設が底堅い」——など、少し期待を抱かせる情報も交わされました。

時間指定配送と資材搬入時の安

で持って上がり」などの要求もあることが明らかにされ、このような場合には、安全対策の点から断ってもよい——とする意見が多数を占めました。

資材価格については、「逆立ちをしてもできない安値を提示する同業の納入業者があるようだ。赤字覚悟で取引をせざるを得ない場合もときどきある」とする賛助会員の意見に代表されるように、度を越した安値が横行している現状が明らかにされました。「（メーカーが）大量発注のサブコンに売る価格と一般流通業者へ卸す価格に大きな格差がある『二重価格』が問題。ユーザー層で安い価格が独り歩きしている」とする意見も多く、機会を捉えてメーカーへ自肅を求めていくこととしました。メーカーによる製品価格の値上げについては、資材樹脂製品を中心に引き上げの動きが強まっている現状が報告され、メーカー側から



組合員側出席者

懇談会は山田誠香副理事長の司会で進められ——

- ①工事受注状況と見通し
- ②時間指定の配送と安全対策
- ③資材価格の変動

——に関連する諸問題について情報・意見を交わしました。受注状況については、「マンション建設で施主の要請により工期を先延ばしするケースが目立ち、建設の仕



賛助会員側出席者

全対策については、主に賛助会員側から「時間指定、搬入場所指定への要求は年々強まっている」「時間指定・場所指定などの条件が付くのは空調工事現場では少ないが、衛生工事現場では多い」「搬入指定時間まで現場から離れた場所で待機せよなど融通がきかない」——といった現状が報告されました。また、中には「何階ま

は原材料高騰などに苦慮している意見も出されました。

最後に玉川義光副理事長が「1級技能士を毎年50人育てることに努力している。技能向上など将来につながる業界づくりをしているので、現状は厳しいが、将来を見越してわれわれ配管工事業と付き合ってほしい」と賛助会員側へ要望して閉会しました。

第26回3団体懇談会開く

「65歳未満技能者」の

現場就労問題で意見・情報交換



近畿保温保冷工業協会（保温協会、会長細見義征氏）、近畿空調工事業協同組合（ダクト組合、理事長増田岳史氏）と当組合の関連3団体は、11月10日午後3時から5時まで当組合事務局近くの三栄ビル会議室で第26回懇談会を開催し、昨今問題となっている『65歳未満技能者の現場就労』などについて意見・情報交換しました。

今回は当組合の担当で開催され、3団体から合わせて19名が出席し、当組合齊藤昭一理事長の司会で進められました。『65歳未満技能者の現場就労』問題については、昨今、60～62歳のいわゆる団塊の世代がこの年代を迎えて数が増加している中、建設現場で60歳以上技能者の就労が拒否されるケースが少なからずあり、3団体共通の課題としてその対応を協議しました。厚生年金や国民年金の支給年齢が段階的に65歳に引き上げられつつあり、また65歳への定年延長や65歳まで再雇用という一般社会情勢にあって、60歳以上65歳未満技能者の現場就労ができないのは大きな問題となっています。

この年齢制限撤廃を全現場で徹底してもらうため、まず、工事発注元のサブコンやゼネコンサイド

へ現場就労の条件を設定しようと協議した結果、その条件を下記のように設定しました。

- ◇65歳未満の者は高齢者といいでほしい。（世界保健機構の高齢者定義は65歳以上）
- ◇実務経験が10年以上あり、事業主が経験豊富と認めた者は年齢制限を設けないでほしい。
- ◇特別技能を要する現場作業の従事者には年齢制限を設けないでほしい。
- ◇1級・2級技能者資格者には年齢制限を設けないでほしい。
- ◇65歳以上の一般技能者に対しては、大阪空調和衛生工業協会（大空衛）認定の体力測定を実施し、その体力年齢により就労させてほしい。（65歳未満体力年齢保持者は就労可）

——以上の条件を設定し、大空衛を交えた4団体懇談会の場へ提議・要望することとしました。

懇談会ではこのほか、「サブコン有志一同課長会」との勉強会開催についても話し合われ、同会とは保温保冷、ダクト、配管それぞれの団体と個別に勉強会を開催していくこととしました。

大空衛との懇談会開催

『65歳未満現場就労』の問題については、11月13日に大阪市中央区の大空調和衛生工業協会（大空衛）事務局で同協会専務理事、会員会社の技術幹部2人を交えて4団体懇談会が開催され、3団体はこの問題を提議・要望しました。



3団体、大空衛からそれぞれの立場で意見が出され、今後、60～65歳未満技能者が業界にどれだけ存在しているのか、60歳以上技能者がどういう制限を受けているのか——のデータを収集し、3団体の業界と大空衛のサブコン業界、またゼネコンも含め、さらには労働基準局など監督官庁や大阪府など自治体も巻き込んで建設業・社会全体の問題として克服していくことを申し合せました。このため、今後時間をかけて取り組んでいくこととなりました。

第7回 組合員懇談会開く

青年部会活動報告と業況情報交換

第7回組合員懇談会を12月3日午後3時30分から5時まで組合事務局近くの三栄ビル会議室で13名出席のもと開催しました。

懇談会は加藤猛理事の司会で進められ、山田誠香副理事長のあいさつに続き①組合青年部会の活動報告②景気後退に伴う工事量減少と売上高下落への対応③情報交換について報告と意見交換が行われました。

「組合青年部会の活動」については、小阪武司部会長が昨今の活動報告・取り組みを説明しまし

た。この中で、小阪部会長は、ほぼ毎月、例会を開催し情報・意見交換を図っているほか、日本配管工事業団体連合会（日管連）青年部会議と第9回全国青年部合同部会への出席、大阪管工機材・設備総合展の出展協力、工場見学会などをを行ったことを報告しました。月例会はインターネットと外部サーバーを使った常設の打ち合わせ場所の設置などITを駆使した取り組みを行っていることを明らかにしました。また、青年部PRペーパーを作成し活用方法の検討と

第14回 大阪管材展に出展

組合活動を幅広く紹介

管工機材と設備機器を一堂に集めた「管工機材・設備総合展OSAKA 2009」（第14回大阪管材展=大阪管工機材商業協同組合主催）が昨年9月10～12日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪で開催され、当組合は後援団体として参画するとともに、ブースに出展して組合の存在・活動などを幅広い層にアピールしました。

今回は「どーんと発信！ 流体テクノロジー」をテーマに開催され、延べ1万3281人の入場者で賑わいました。地球環境保全や住宅



スーパー・ボールすくいゲームで来場者とコミュニケーション



来場者に組合の存在をアピール

・ビル・工場などの快適環境づくりに貢献する広範な管工機材・設備機器が勢ぞろいし、最新情報が発信されました。

当組合は、事業活動などを紹介したパネルを展示し、また事業内

配布を行っているほか、新入会員の募集に注力していることを説明しました。

小阪部会長は今後の活動として ◇月1回の月例会の開催 ◇ホームページ変更・更新・維持管理 ◇工場見学の実施 ◇勉強会の実施 ◇親睦会の実施 ◇学校向け「関西配管工事業協同組合青年部」ペーパーの作成 ◇全国青年部合同部会への参加 ◇親会活動の補助一を予定していることを述べました。

このほか、懇談会では、昨今、工事量の減少、受注価格の下落が続いていることについて話し合い、業界が抱えるさまざまな問題についても意見交換しました。



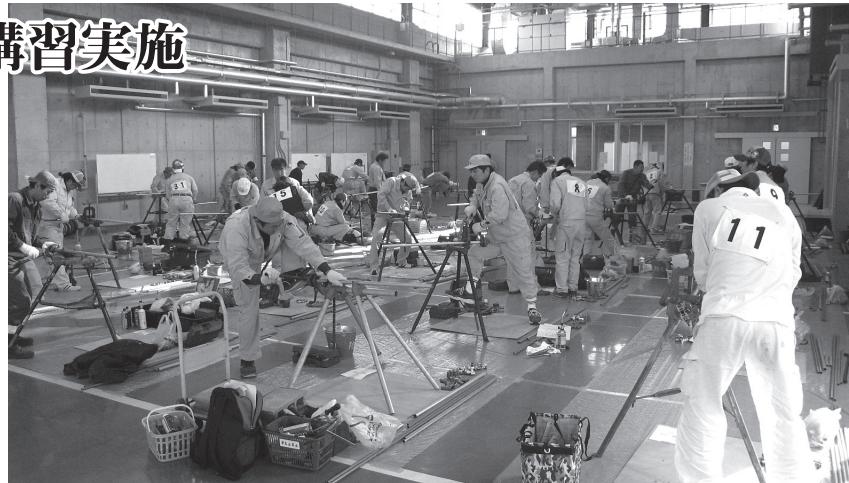
テープカットに臨む当組合の玉川副理事長（左から3人目）

容や組合概要を掲載した資料などを配布したほか、配管技能士の実技試験用のモデルも実物展示しました。さらに、青年部会の協力により、水中ポンプでボールを循環させる「スーパー・ボールすくい器」をブースに設置、来場者にスーパー・ボールすくいを楽しんでもらいました。家族連れなどが立ち寄り、時折歓声が上がるなど人気を呼び、来場者と賑やかにコミュニケーションを図りながら組合の存在をPRしました。会期中、組合役員や青年部員が数人ずつ交代でブースに詰めて、来場者の応対に当たりました。



技能検定対策の実技講習実施

南大阪高等職業
専門校で2日間



実技講習は検定本番さながらに行われた

平成21年度の1級配管技能検定（22年1月実施）へ向け、組合では12月26日（土曜）と27日（日曜日）の2日間、大阪府和泉市テクノステージの府立南大阪高等職業技術専門校で実技講習を行いました。

この講習会は11月にレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、今回は31名の受



「材料取り」の講習



菅野指導員によるねじ切りの模範実技



池成指導員による溶接の模範実技

検査予定者が受講しました。講習は当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き座学として坂元日出海講師による「材料取り・ペーパーテスト」の講習が行われました。午後は実技講習となり、まず



指導員のきめ細かい指導のもと真剣な表情で実技講習に臨む



玉川義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は①油断禁物②練習の重要性③現場作業との違いを把握④自分の弱点を知る⑤図面の理解力アップ⑥正しい施工法と工具の使用法——など受検のポイントを説きました。

作業手順の説明に続き、菅野泰行、駒岡泰男、池成信夫の各指導員が手動ねじ切りや溶接の模範実技・指導をそれぞれ行ったあと、実技講習に入りました。各指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は技能検定に欠かせない手動ねじ切りや接着接合、配管組立などに汗を流して取り組みました。



2日目は、午前中に実技講習を行ったあと、午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品作製に真剣な面持ちで臨んで仕上げ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出しました。

技術研修会開く

レッキス工業花園工場で 「手動ねじ切り」を実習

パイプと継手の 商品知識も学ぶ

組合は、11月28日に大阪府東大阪市のレッキス工業・花園工場で1級配管技能士検定に向けた技術研修を実施しました。技能検定に備え、12月下旬の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）に向けての予備研修として実施しました。

この研修会は毎回同社の全面的なバックアップにより実施され今回で10回目を迎えました。この日も土曜休業日にかかわらず幹部・技術スタッフが10名以上出勤して研修をサポートしてくれました。

研修会には34名が出席。開講あいさつで玉川義光副理事長（教育情報部会長）は、「レッキスさんにご協力いただきて本日10回目の記念すべき研修会を迎えた。この間、配管技術はねじ接合からメカ



円内は受講者を激励する玉川副理事長

ニカル接合、接着接合、電気融着接合へと幅が広がり、技能者は学ぶことが多くなった。いま業界は大変厳しい状況にあるが、今日参加いただいた若い皆さんに技能を向上させることで将来は必ず開ける。大いに成長し、夢のつくれる業界へ向け、われわれとともに努力してほしい」と激励しました。

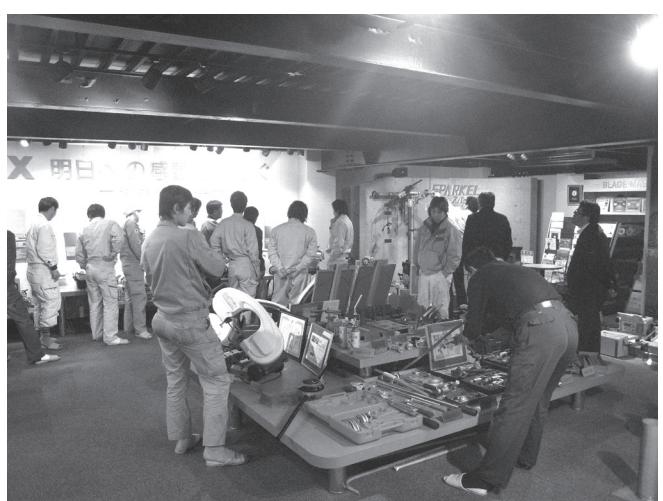
研修会では、技能検定で欠かすことのできないパイプの「手動ねじ切り」に挑戦しました。レッキスの担当者や組合役員らからレクチャーを受けたあと、慣れない手つきで実習に臨みました。また、同工場隣接の「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、住友金属工業のポリエチレン粉体ライニング鋼管と日

立金属の継手について商品研修を実施しました。住友金属からは大阪钢管室の浅野仁志室長と西原文太郎担当副長が出席。ポリ粉体钢管が、切削ねじ切りに比べて飛躍的に強度・耐震性を高めたレッキス工業の「転造ねじ切り」に適した管種であることが説明されました。さらに、同社のパイプは、接合部を「電気抵抗接合」と呼ぶ独自の強固な接合方法で製造しているため、管端部を押し広げる「フレア加工」で管端に割れが生じないなどの特徴が紹介されました。また、レッキスの転造パイプマシンを用いたポリ粉体钢管のねじ切り実演と、転造ねじ接合品の強度実験も行われました。この実験では、切削ねじ切り品がある程度の力を加えると接合部が破損してし



手動ねじ切りの実習（正面はアドバイスする池成理事）



レッキスミュージアム見学

まうのに対し、転造ねじ切り品はパイプが曲がるまで力を加えても接合部が外れず、その強度の高さを全員で確認しました。

日立金属からは関西支店・配管機器グループの土屋実典課長が出席し、給水管の異種金属接合による腐食の原理とその対策を解説しました。また、薄肉ステンレスパイプ拡管接続システムの同社商品「ZLOK」（ゼットロック）の特徴も紹介されました。この商品



慣れない手動ねじ切りに挑戦



住友金属工業による商品・技術研修



日立金属による商品・技術研修



転造パイプマシンを用いて実演

は耐食、耐熱性にすぐれ、軽量、高強度のステンレス配管の特性を生かしたメカニカル継手として高く評価され、とくに「確実なシール性」「強い接続」に加え、「施工ミス防止」と「締め忘れ防止」に独自の機構を取り入れた製品と



日立金属による実演

して注目を集めています。商品説明のあと、拡管機による実演も行われました。

研修会場にはレッキス製品が展示・実演され、受講者は休憩時間などに商品を手にとって、その性能などを確かめていました。

レッキス工業に感謝状贈呈

技術研修会の全面支援に感謝

組合は、11月の技術研修会が第10回目を迎えたのを記念し、この研修事業について会場提供をはじめ全面的にバックアップしていた大手企業であるレッキス工業（社長宮川恭一氏）に対して感謝状を贈呈しました。

研修会では、同社から会場をはじめ研修用配管機器・資材などを提供していただいているほか、実施日が同社休業日（土曜日）にもかかわらず、幹部や技術スタッフの皆様が毎回10名以上も出勤され

て研修を全面的に支えてくれています。

記念すべき10回目の研修会では、講義に先立ち玉川義光・教育情報部会長（副理事長）から同社・宮川純一副社長に感謝状と記念品（絵画）が手渡されました。玉川副理事長は「10年前、ぜひご



宮川・レッキス工業副社長（左）に感謝状を手渡す玉川副理事長

協力をとお願いしたところ、快く引き受けさせていただいた。この10年間、ここで研修を受けた人の中から1級配管技能士が400人以上も育っていった。技能向上で業界の発展をめざす当組合にとって誠にありがたく感謝に耐えない」と同社にお礼の言葉を伝えました。

増田工業(株)

徹底した採算意識と高度な技術基盤構築



増田 岳史社長

ダクトから配管へ進出

「ダクトと配管の両方を手がけているところは少ないんじゃないかな」と社長の増田さんがいわれるよう、同社は売上高ベースでダクト60%、配管40%と両業界の中できわめて珍しい企業形態となっています。

この業態は創業に起因しています。「先代である父は、板金屋さんで修業し、昭和26年、17歳で独立開業しました。若い！」といわれるでしょうが、当時は別に珍しいことではなかったようです。現在の本社所在地、城東区関目で50坪ほどの敷地に工場兼事務所を構えてダクトの製作・工事を始めました。法人に改組したのは7年後の33年です」

「昔のダクト工事屋は、ダンパ

ーやフランジ、吹き出し口などをすべて自分でつくり、溶接、穴あけ、プレス加工も自分たちでやっていましたと聞いています。現場でも切って溶接してという作業が多く、そこまでいったら、もう空調配管もできてしまう」——ということで、40年に配管部門を立ち上げます。

45年の大阪万博を挟み、41~45年のいざなぎ景気、46~48年の列島改造ブームと好景気にわきます。同社はその機を捉え、関目の事業所だけでは手狭になりつつあったことから46年に門真に265坪の土地を確保し新工場を建設します。

「今でこそ、建物が密集していますが、当時は田んぼやレンコン畑ばかりの湿地帯で、道は舗装されておらず、電話線もなかった。先代や先輩方も苦労したようで

す」と増田さん。

11部門の独立採算導入

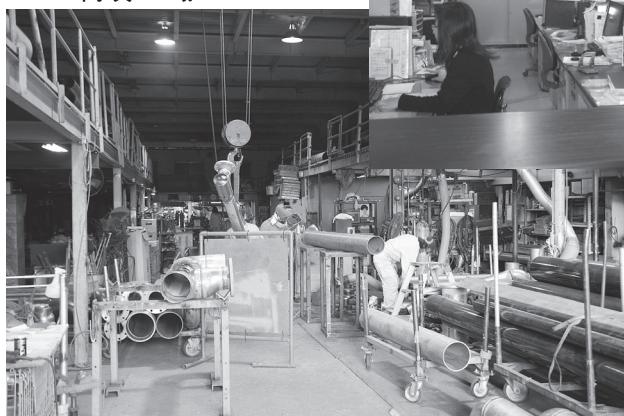
同社は昭和56年頃から製缶・ダクト、配管に加え、エアシャワ、ロールフィルタなどクリーンルームユニットも手がけるようになります。34年生まれの増田さんが入社するのはこの頃で、大学卒業と同時に57年に入社。経営後継者として、いかに効率よく少ない予算で仕事をこなすかに着目したといいます。そこで、まず手をつけたのは電算化。ほとんどの中小企業が手書き経理の時代に、当時オフコンと呼ばれていたコンピュータを導入しました。

「初めは手探りでしたが、1年ほどでようやく格好がつき、平成に入る前には完全にシステムとして機能するまでになりました」

増田さんがコンピュータ化に注力したのは、合理化・効率化が主目的でしたが、実はもうひとつ理由があったといいます。それは、全社的な採算面の意識改革です。

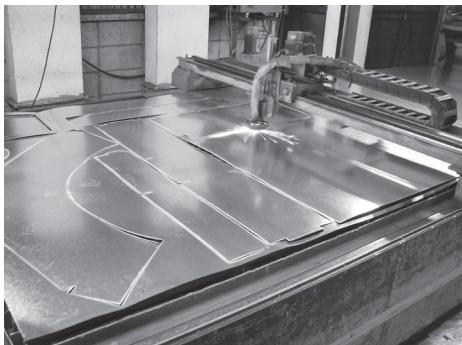
「業務内容が多様ということもあって、それまでほとんど井勘定でしたね。どの部門でどれだけ儲かっているのか分らない。あるいは損をしているのかも知れない。これでは長期の経営計画や方針の

門真工場

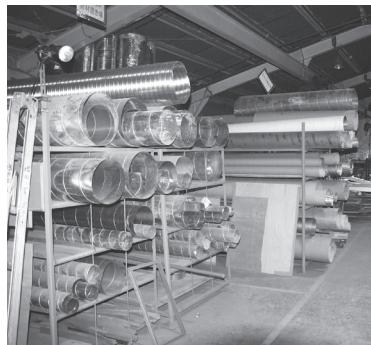


門真事業所事務室





稼働中のプラズマ切断機



材料保管所（門真事業所）



会議室（門真事業所）

立てようがなかった」と振り返ります。

増田さんは徹底した事業の細分化で採算性を浮き彫りにしようと試みます。それは事業を11の部門に分けることでした。ダクト分野で営業2部門、製作2部門、施工2部門、配管分野では営業部門と施工部門、それに本社業務も2つに分け、運送部門を加えた11部門——これら部門の採算性を割り出し、それぞれが利益を生み出す独立採算の仕組みをつくりました。

果敢に設備・技術投資

コンピュータ化、独立採算制の導入と経営の改革を図り、業容を拡大しますが、一方で同社の発展は技術の高度化、刷新に支えられたものでした。

ダクト製作にプラズマ切断機を導入したのもその一例です。昭和61年、当時、関西で数台しか設置されていないといわれたプラズマ



出番を待つ空調配管ユニット
(門真事業所)

切断機を先駆けて導入します。

「企業規模に照らして高額な設備投資でしたが、それだけ儲かっていたのでしょうかね」と増田さんはユーモア交じりで述懐されます。「コンピュータ制御とはいえ、すごく時間がかかる機械でしたが、品質の向上、合理化に威力を発揮しました」

さらに平成3年、兵庫県氷上町（現丹波市）に1390坪の用地を入手し、ダクト製作の新工場を建設します。現在の『ひかみ工場』です。

閣空建設などに伴う大型需要を

まかぬための設備投資で、これにより生産能力は飛躍的にアップします。

順風万帆な歩みでしたが、平成11年、創業者・増田小太郎さんが亡くなられたのです。同氏は近畿空調工事業協同組合（ダクト組合）の役員として活躍されるとともに、関西配管工事業協同組合の前身団体の立ち上げにも尽力します。

先代の跡を受け新社長に就いた増田さんは「両方の組合にいきなり顔を出さざるを得なくなり、最初は戸惑いました。会社の方は、まず継続できる体制づくりと顧客の信用を保持することに専念しました」といいます。

「幸い、優秀な番頭さんや職人さんに支えられてきました。それは今も同じです。一時、総合設備業への道も模索しましたが、それもやめて実質施工部隊として進んでいきます」と語ってくれました。

☆☆増田工業(株)☆☆

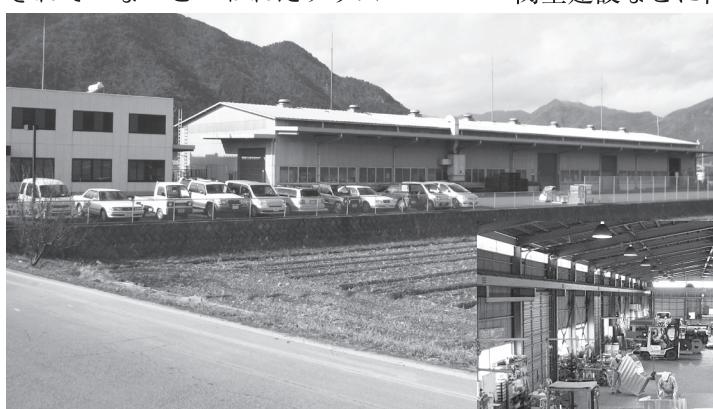
◇本社＝大阪市城東区関目

6・12・14

◇事業所／工場＝門真市江端町
丹波市氷上町

◇資本金＝3000万円

◇従業員＝50名



ひかみ事業所



日管連青年部会

北海道で第9回全国青年部会開催 地区動向と青年部活動状況を報告

組合の上部団体・日本配管工業団体連合会（日管連）青年部会の「第9回全国青年部会」（北海道大会）が昨年10月2日に北海道札幌市の札幌グランドホテルで北海道配管工事業協同組合青年部の主催により開催されました。

大会は、北海道青年部部会長・松苗泰信氏の開会の辞で幕を開けました。日管連副会長である北海道の横田昇理事長の祝辞に続き「各地区意見交換会」に移りました。事前に①「紹介・近況・活動報告」②「配管技術意見交換会」2つのテーマを各地区ごとに発表し、その後「組合事業の今後の取り組み」「青年部活動のあり方」についてブレインストーミングを行うという構成でした。発表内容を各地区別に要約すると以下のとおりです。

◇北海道配管工事業協同組合◇

①サブコン・ハウスメーカーの倒産が相次いでいる。そんな中、組合としての官公庁物件の「共同受注」が報告され、出席者の大きな興味を集めた。

情報 最新の配管技術で 意見交換



②「ロックスリープ」という釘打ちが不要なスライドスリープの「釘いち」という商品が紹介された。

◇関東配管工事業協同組合◇

①羽田空港関連やマンション関連事業は活発ではあるが、工事全体は減少傾向で、工種を変えたり廃業する業者も少なくない。
②架橋ポリエチレン継手（差し込み式）での漏水事故が多発し、施工・品質上のトラブルが続々、PL保険での取り扱いにも問題が発生している。

◇中部配管工事業協同組合◇

①「トヨタショック」に影響を受けた設備投資の減少が工事量に大きく響いている。
②空調機器の揚水・排水装置「ドレンアップメカ」の状態が確認できる機器「ドレンアップチェ

ッカー」、そして金属紐によって天吊機器を固定する「ワイヤーシステム」の紹介もされた。

◇中国配管工事業協同組合◇

①1級技能士会を開催した。官公庁入札は低価入札が多く、全体の60%にも上り、物件も縮小化し不景気を色濃く反映している。
②簡易で短時間で使用可能な緊急アスファルト補修材「クイックファルト」が実演付きで紹介された。

◇九州配管工事業協同組合◇

①官公需要はすべて減少傾向。価格圧縮のために共同購買も実施している。
②鋼管の接合部での施工時にシールテープとエポキシ接着剤の併用についてサブコンとの間で協議されている件が報告された。

◇東北配管工事業協同組合◇

①青年部設立総会を開催。官公需要は政府の補正予算による予算下落の影響が出ていること、サブコンの現場施工管理員の余剰が報告された。
②納期短縮など、バーリング加工機械の有効性の可否・真偽が他の地域に問われた。



◇関西配管工事業協同組合◇

①工事量減少、単価下落はあるが、大阪キタ・ミナミの大規模開発計画が進んでいる。また、青年部の活動としてホームページの刷新・更新作業、管工機材展でのイベントとアンケート調査などが報告された。

②「保温バンド」「空調用無火気継手」「ガス式アンカー打ち機」など改修工事に便利な材料・工具の紹介がされた。

——以上のように各地区からさまざまな情報が提供され、意見交換が行われました。

そして、2008年からの議題であった「全国青年部会」の臨時役員会が催され、初代部会長に関東青年部会長の山田栄二氏が選任されました。「全国青年部会」は全国での連携をもっと密にして実務的な活動を行いたいという観点からその設立の機運が高まり、08年11



月に全国合同部会で設立のスケジュールが発表され、09年1月に規約（案）作製、日管連理事会での検討を経て、7月の日管連総会において承認され、正式発足の運びとなりました。

今後、日管連理事会での発言権を有することとなり、その活動が注目されるでしょう。

会議が白熱するあまり、予定時間をオーバーしてしまい、残りの議題は各地区から発表予定内容を後日レポートにて提出してもらい、北海道が取りまとめ報告することとしました。

その後、ホテル内で場所を移して懇親会が催され、マジックシ

ヨーなどの出し物、地区の会員紹介などが行われ、各地区と旧交を温めました。

翌日は北海道地区の企画により、小樽観光とゴルフコンペが催されました。観光組は小樽運河・旧倉庫街などを散策、昼食は海の幸を堪能しました。ゴルフ組はゴールド札幌カントリーでラウンド、雄大な自然と触れ合い、プレーに一喜一憂しました。当日は天候にも恵まれ、両組とも北海道の自然と幸を満喫され、さらに親交を深めました。

このように盛会のうちに閉会し、翌年の東京での再会を誓い各地区への帰路につきました。

青年部会

クボタ・枚方製造所を見学 バルブの製造現場学ぶ

一部会長 小阪 武司一

組合青年部は、昨年12月11日(金)、大阪府枚方市にあるクボタ・枚方製造所の見学会を実施しました。

同製造所は昭和37年に操業開始。現在、鉄鋼、ポンプ、建設機械の3事業部門で構成され、各部門とも開発・設計、製造・工事、営業があります。平成11年に品質管理の国際規格・ISO14001、平成17年に環境マネジメントシステムの



製造所構内で



概要説明を受ける一行

国際規格・ISO14001の認証をそれぞれ取得している近代工場です。

今回の見学は2時間という限られた時間でしたので、バルブ事業部のラインを見学しました。水道本管などに使用される鋳物のソフトシール弁や、農業用水や原子力発電所などに納入される直径4mを越える大型のバタフライ弁などの製造過程を見てまわりました。

粉体塗装の工程や、あまり扱うことのない超大型バタフライ弁の製造過程は、とても興味深いものでした。大型の物になると、鋳物ではなくて鋼を曲げて成型していたり、溶接やゴムのライニングなど手作業で行われているということが意外でした。安全管理や製造管理も、とても勉強になり有意義な工場見学でした。

理事会 議事要旨

【21年9月】

- ①日管連の理事会・定時総会・懇親会・親睦ゴルフコンペ報告
- ②大空衛主催の第1回配管技能コンテスト結果報告
 - ・8月7日に東住吉総合高校で実施され、当組合から16名が推薦参加し、一般の部30名、高校の部11名で行われた。当組合員の藤工業・川口秀一氏が優勝
- ③第1回4団体協議会報告
- ④日管連第9回全国青年部会開催について
- ⑤賛助会員との懇談会開催要領作成について
- ⑥技術研修会開催要領作成について
- ⑦第14回管工機材・設備総合展役員当番表の確認
- ⑧その他
 - ▽22年新年賀詞交歓会の開催日程

【21年10月】

- ①21年度認定訓練1級配管技能士コース修了報告
 - ・4月12日から9月6までの15日間開催、申込者39名のうち35名が修了
- ②第14回管工機材・設備総合展報告
- ③賛助会員との懇談会への提出議題の検討
- ④技術研修会開催に対しレッキス

工業への感謝状・副賞贈呈について

⑤第26回三団体懇談会開催日程と当組合からの提案事項の検討

⑥21年度1級配管技能検定受検対策実技講習開催について

⑦守口高等職業技術専門校の企業見学会開催に伴う当組合からの出席者について

・10月30日に開催され、当組合から5名出席

⑧その他

▽21年度「登録配管基幹技能者講習」の案内について

【21年11月】

- ①第5回賛助会員との懇談会報告
- ②サブコン有志一同課長会開催への当組合からの出席メンバーについて
 - ・8名が出席することに決定
- ③技術研修会実施に伴うレッキス
- 工業への感謝状並びに副賞の贈呈について
- ④第7回組合員懇談会開催要領作成について
- ⑤22年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について
 - ・22年4月11日～9月5日までの15日間。ポリテクセンター兵庫で実施することに決定

⑥22年新年賀詞交歓会開催日程と場所並びに開催要領作成について

⑦その他

▽「おおさか技能フェア2009」開催の案内

【21年12月】

- ①第10回技術研修会終了報告
- ②第26回三団体懇談会報告
- ③大空衛主催の第2回4団体協議会報告
 - ・技能者の高齢化問題、基幹技能者の処遇、若手技能者の育成について今後協議していくこととした
- ④サブコン有志一同課長会主催の勉強会報告
 - ・11月18日に開催され、サブコン側から6名、当組合から7名が出席。設備工事における不具合事例について意見交換した
- ⑤日管連理事会報告
 - 11月4日に東京で開催され、当組合から斎藤・玉川・立花の正副理事長3名が出席
- ⑥組合員の脱退申し出の件
- ⑦賛助会員の脱退申し出の件
- ⑧その他
 - ▽空気調和・衛生工学会主催の給排水衛生設備基準・同解説の説明会について

田中元理事長 逝去

元当組合理事長田中久睦氏（本名・田中寛=たなか ゆたか）は、昨年12月26日午前6時30分、永眠されました。享年82歳。葬儀・告別式は12月28日に大阪市北区の佛照寺で営まれました。喪主は長女保美（やすみ）さん。

故田中氏は、平成4年、当組合前身の関西配管工事業協会発足と



組合創立総会で挨拶する田中理事長（平成8年9月）

同時に会長に就き、平成8年の協同組合設立により初代理事長に就任されました。13年まで3期5年同職を務められ、笑顔を絶やさな

い大らかで豪胆な人柄が人望を集めリーダーシップを發揮されました。ご冥福をお祈りいたします。

登録配管基幹技能者講習を開催 近畿会場で当組合役員3氏が講義

「登録配管基幹技能者」の国土交通大臣登録講習が近畿地区では1月28~30日の3日間、昨年と同じく兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで開催されました。

さまざまな業種で制度を設けている「基幹技能者制度」は一昨年、国土交通大臣の登録講習制度として位置付けられました。それまでの基幹技能者講習は同年4月から国土交通大臣の登録を受けた実施機関で行う「登録基幹技能者講習」に衣替えし、講習を修了した者は経営事項審査で加点対象となる「登録基幹技能者」となりました。

当配管業界では、組合上部団体の日本配管工事業団体連合会と全

国管工事業協同組合連合会、日本空調衛生工事業協会の3団体が国土交通大臣の登録を受けた実施機

関として共同で平成20年度（21年1~2月）に初めて「登録配管基幹技能者講習」を実施し、今年度は第2回目の講習となりました。

今年の登録講習は近畿、関東、中国（広島）の3地区で開催。近畿地区会場では、当組合から講師・控えの講師として合わせて役員5名が出席、山中淳市事務局長も会場の準備・受付など管理員として出席する中、87名が受講しました。登録講習の3日目には、当組合の斎藤昭一理事長、玉川義光



副理事長、庄司真之理事が「OJTとその進め方」「OJTの実践方法」「OJTの実践演習」「ケーススタディ」の講座を受け持ちはしました。また、控えの講師として池成信夫、中野広造両理事が講義を手助けしました。なお、初日に斎藤理事長と大阪空気調和衛生工業協会・槇淑也会長がそれぞれ開講あいさつを行いました。

合格発表は3月末ごろに行われる予定です。

大空衛主催

配管技能コンテストに参画 組合所属の川口氏が一般の部優勝 「一般」「高校生」計41名が参加

昨年8月7日に大阪空気調和衛生工業協会主催の第1回配管技能コンテストが平野区の大阪府立東住吉総合高等学校で行われ、当組合は同協会の要請を受けて組合員企業から16名が参加しました。

コンテストは、現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備関連の学科を履修している東住吉総合高校と布施工科高校の生徒を「高校の部」と2つに分けて行われ、一般の部30名、高校の部11名の計41名が腕を競った結果、一般の部で当組合員・藤工業所属の川口秀一氏が見事優勝しました。コンテストは東住吉総合高等学校と布施工科高等学校の先生方が審査員や審査補助員として多数出席、当組合からも役員などが出席してお手伝いをしました。

上位入賞者は次の通りです（敬称略）。

【一般の部】

◇優勝=川口秀一（藤工業） ◇準優勝=竹上晃孝（東和管工） ◇3位=浦辺優（三晃空調大阪本店）
◇4位=中村忠昭（東和管工） ◇



5位=山本浩二（中道設備工業）

【高校の部】

◇優勝=笠原由絵（東住吉総合高校3年） ◇準優勝=田中和貴（布施工科高校3年） ◇3位=杉野友祐（同） ◇4位=井上啓太（同）
◇5位=三嶋宏明（同）。



関係者とともに記念写真におさまる
一般の部上位入賞者（前列）



一般の部コンテストのもよう

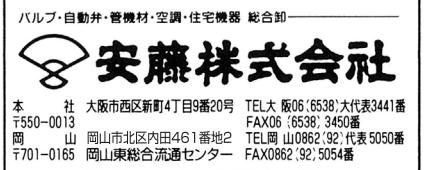
「適正」

をお届けします。



バルブ(BC・FC・コアタイト…)

建築技術の進歩と共に、設備工事における配管施工の技術の革新も大きく進歩しています。安藤株式会社は、多種多様な用途別ラインごとに適正な機種の選択をして、適正な商品をお届けする事を使命と考えております。



ステンレス製品

メカニカル式管継手
サスフィット 拡管式
ねじ込み継手



YODOSHI
株式会社 吉年

本社・工場 〒586-8528 大阪府河内長野市上原西町16-1
TEL:0721(53)3121 FAX:0721(54)1814
東京支店 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-11
TEL:03(5297)8221 FAX:03(5297)8222

印 管継手類・設備機器

Materials Magic

管端防食管継手

印 PQWK



管継手、管端防食管継手 PQWK
SUS管用メカニカル継手 Zlok (ゼットロック)
日立カップリング継手 オメガシリーズ
日立密閉型膨張タンクシリーズ
ウォータハンマ防止器

日立金属株式会社 関西支店

〒541-0041

大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)

TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

HITACHI